環境保護活動に取り組むハリウッド

ロビン・Ｌ・イェーガー

映画業界では、個人から大手スタジオに至るまで、環境に優しい活動を採り入れるようになっている。ロビン・Ｌ・イェーガーは米国務省国際情報プログラム局の専属ライター兼「社会と価値観」の副編集長。

映画製作は、特に環境問題の点から見れば厄介な事業といえる。「ライト、カメラ、アクション」という言葉には、通常、一時的にしか使わない撮影用の建物やセットをつくり、台本を何百部も印刷し、スタッフの食事を確保し、冷暖房を調整しなければならない、という意味が込められている。さらに、アクション・シーンには爆発と点火装置が不可欠である。照明は電力を食うし、人や物の移動には車にしろ飛行機にしろ必ず何らかの輸送手段を使わなければならない。デジタル技術ですら、特殊装置の製作・使用・廃棄処分によって環境問題を引き起こしている。

カリフォルニア南部の巨大産業のひとつとして、映画産業は歴史的に地域の環境汚染の一因となってきた。しかし今では、ハリウッドにはビジネスのあり方を変えようと懸命に努力している人たちがたくさんいる。環境に対する関心は、大手映画会社の上層部や職員から個々の俳優、アーティスト、実務担当者に至るまで、さまざまな関係者に広がっている。

映画会社

率先して環境対策を導入している映画会社経営トップには、ワーナー・ブラザーズの社長兼最高執行責任者アラン・ホーンや、ユニバーサル映画の社長兼最高執行責任者ロン・マイヤーがいる。ユニバーサルは３％の温室効果ガスの削減を約束し、テーマパークのディーゼル電車を環境に配慮した乗り物に交換するなど、さまざまな措置を講じている。

ワーナー・ブラザーズはこれまで 14 年以上にわたって環境問題に力を入れており、環境対策担当の重役もいる。同社の環境保護活動はゴミの削減やリサイクルから始まったが、今では広範囲なプログラムに発展している。概要はウェブ・サイト［www.wbenvironmental.com］ を参照。メニューから「エコ・ツアー(Eco-Tour)」を選ぶと、環境問題対策部長のシェリー・ビリクが登場し、ワーナー・ブラザーズの取り組み

について語る。ビリクは映画事業のさまざまな特徴を説明し、同社が実施した対策を挙げ、環境保護政策は地球によいだけではなく、ビジネスにとっても有益であると述べている。

ワーナー・ブラザーズの環境対策は業界随一。その取り組みについて話す同社のシェリー・ビリク。 ©2007 Warner Bros. Entertainment Inc. 転載禁止

映画作品

ジョージ・クルーニーがアカデミー助演男優賞を受賞した長編映画「シリアナ」には環境的テーマが含まれ、やはりアカデミー賞を受賞したドキュメンタリー映画「不都合な真実」では、元副大統領のアル・ゴアが世界中の観客に地球温暖化の問題を提起した。どちらの映画でも、映画製作者たちが全プロジェクトの「カーボンニュートラル」に挑戦している。カーボンニュートラルとは、プロジェクトのエネルギー消費によって生じる温室効果ガスの排出量を、それに相当する分だけ、一定数の木を植えたり、太陽エネルギーなど再生可能な代替エネルギーに投資して、相殺することを意味する。

個人の活動

俳優や映画製作者は、役柄や企画を選ぶ際に環境保護を念頭においたり、問題をアピールするために自分の立場を利用したり、環境保護運動を財政的に支援したりしている。環境問題に積極的にかかわっている映画人のひとり、ロバート・レッドフォードには、その活動に対して数多くの賞が贈られている。またレッドフォードの所有するケーブルテレビのサンダンス・チャンネルは、最近、環境問題を扱った「The Green」という番組を毎週シリーズで開始した。レオナルド・ディカプリオは、地球環境の現状を知らせる長編ドキュメンタリー映画「The 11th Hour」のプロジェクトを手がけた。この映画は 2007 年に公開される予定だが、ディカプリオはほかにも環境をテーマにしたリアリティ番組や環境問題

を扱った短編映画の製作に取り組んできた（［www.leonardodicaprio.org ］を参照）。また、脚本家で監督でもあるポール・ハギスは、職業人としての活動ではもちろんのこと、私生活でも太陽発電の家に住み、ハイブリッド車を運転するなど、環境に配慮して暮らしている。ほかにも、ローリー&ラリー・デービッド、ロブ・ライナー、トム・ハンクス、ハリソン・フォード、ノーマン・リアー、キャメロン・ディアス、ダリル・ハンナなど、環境保護活動で知られる映画人は多い。

映画芸術科学アカデミーは 2007 年アカデミー賞授賞式という格好な機会をとらえ、式そのものが環境に配慮して行われたと述べ、視聴者にアカデミー賞のＨＰ［www.oscar.com］や天然資源防衛委員会のサイトにアクセスして詳しい情報を得るように勧めた。

ジョージ・クルーニーは自分が製作・出演した映画「シリアナ」でアカデミー助演男優賞を受賞。この作品は最初期のカーボンニュートラル映画の一本。

©AP Images/Alastair Grant